

# 衛星写真から見た最近の中国軍事工業

漢和防務評論 20180406(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

衛星写真から最近の中国航空工業を俯瞰する記事がありましたので紹介します。  
今後特に注意すべき点は、艦載早期警戒機の試験飛行であると述べています。  
記事では試験飛行が進行しているようには見えない、と述べています。



漢中航空機公司のエプロン (KJ-500) (陝西省漢中市) (Google Earth)

漢和香港特電：

成都航空機工業公司の第 132 工場 (四川省成都市) では、2017 年 12 月 18 日までの衛星写真を分析すると、J-20 の大量生産を未だ開始していないようだ。エプロンには黄色い塗装の J-20 が 1 機置いてあるだけだ。このことは、新型の次世代戦闘機であれば、常識の範囲だ。初期段階は少数生産であり、たとえ年産機数がわずか数機であっても航空工学の論理に外れていない。中国のネット版軍事ニュースを読む場合は特に注意が必要である。多くのニュースが誇張されている。このような誇張されたニュースは外部世界のプロには全く通用しないが、依然として一部の政策アナリストは誘導され影響を受けている。ある中国の報道は、J-20 の生産が年産 30 機以上に達したと報道したが、現在そのような形跡は見られない。新たに建設された工場の大きさから見てあり得ない話だ。しかし J-10C の生産は明らかに増加している。年産 10 数機の規模である。今後

この機種は全て海空軍に装備される。

瀋陽航空機公司（遼寧省瀋陽市）では、12月5日も多くの戦闘機の工場出荷は見られなかった。特にJ-15は。このことは、11月26日に出現した7機のJ-16及びJ-11Bは、すでに1ヶ月以内に部隊に引き渡されたことを意味する。この点は極めて重要である。KDRの分析では、最近工場で作成したJ-16多用途戦闘機の品質に大きな問題は無く、工場での試験飛行が完了すると、すぐに部隊に送られたと思われる。以前のように、完成後しばらく工場で発送を待つ必要がなくなったのだろう。かつては、中国空軍が国産の太行エンジンを搭載したJ-11Bの受領を拒否し、1年ほど引渡しが延びたことがあった。

西安航空機工業公司（陝西省西安市）では、Y-20輸送機が3機出現し、全部で6機生産されたのかどうか？この生産速度は低すぎるほどではない。H-6Kは9機出荷した。注意すべきことは、艦載早期警戒機の試験飛行である。唯一の原型機は2017年4月から駐機位置が変わっていない。これは明らかに試験飛行が行われていないことを意味する。しかし3艘目の空母は、すでに江南造船所で前期生産が開始された。10年以内には就役するであろう。2018年以降は、艦載早期警戒機の動向を特に注意する必要がある。

漢中航空機公司では、前掲衛星写真を見ると、KJ-500早期警戒機が大量生産に入っている。2017年12月の衛星写真では8機のKJ-500が同時に工場から出荷していた。これは相当大的な数である。中国海空軍の早期警戒機の総数は、すでにNATOの規模に近づいている。NATOは18機のE-3シリーズ機を保有している。

ハルビン航空機製造会社（黒竜江省ハルビン市）では、最近、新たな格納庫を建設し、Z-20及びZ-18輸送ヘリ、またZ-19攻撃ヘリの生産機数を大幅に増やしている可能性がある。Z-19は、陸軍航空突撃旅団に続々と配備されている。また少量が輸出されている。

昌河航空機工業会社（江西省景德鎮市）では、Z-20及びZ-10の生産に注目すべきである。KDRは、2018年から、昌河航空機会社のヘリの生産数が大幅に増加すると予想している。

以上